

創立60周年記念式典



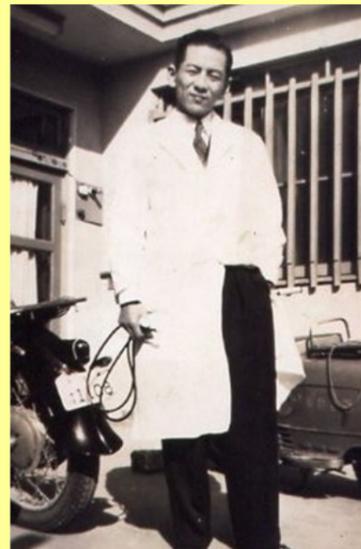
有隣会 東大阪病院 院長 花田 昌一

昭和26年4月、蒲生3丁目に故 田中 治先生が『東大阪病院』を開設され今年で60年目を迎えました。本日は、全体集合を創立60周年式典として晴れがましく執り行いたいと思います。

さて、私が病院長を拝命し今年の9月で3年を迎えることとなります。60周年の式典に際して私の東大阪病院への想いについて、いくつかのキーワードをあげて一言ずつ述べさせていただきます。



←第1病院



創設者 田中治 先生



昭和44年 新病院完成 133床

昭和26年4月 東大阪病院 開設当時

『地域社会との共存・共栄』

東大阪病院が掲げるミッションですが、それぞれ各部署はミッションの実現に向けて努力してきたのですが、有隣会グループ全体として有機的に取り組んできたかというところはまだまだ不十分感をぬぐえません。今後とも連携を取り合いチームとして取り組んでいきましょう。

『バランスト・スコアカード』

職員一人ひとりが、ミッション、ビジョンにむけてベクトルを一つにして大きな力を生み出していくツールです。トップダウン型経営は、有資格者集団である病院にはなじまない方法です。バランスト・スコアカードを使いこなしボトムアップ型経営に全職員が参加することをこれからも望みます。

『ホスピタリティ』

病院長赴任時の挨拶でも話しましたが、東大阪病院は、言うなれば60年の伝統をもった老舗旅館です。この60年間でどんな伝統が培われたのでしょうか？

私は以前に述べたとおり、それはおもてなしの心だと思います。

ともすれば、マニュアル化した医療・介護環境に制度上陥りやすい現状ですが、そこにあるのは、ものではなく、元気になりたい人と元気になってもらいたい人との交流です。どんなに良い医療・介護を提供してもそこに気持ちがないとその効果は半減すると思います。ホスピタリティ、おもてなしの心を持って困っている人に手を差し伸べましょう。

『人を癒すことが出来れば自分も癒される』

平成22年度入職式でお話したフレーズです。

脳科学者 茂木健一郎氏の話ではないですが、人には、鏡の脳ミラーニューロンがあるとのことです。ミラーニューロンに苦しんでいる人々が映し出され自分の苦しみのように感じてしまい辛くなって心の鏡を閉ざしてしまうことは、医療人としては体感することです。そうしないと自己が守れないこともわかります。相手の苦しみに向かい合えば向かい合うほど辛くなります。しかし、少しでもそれを克服し苦しんでいる人を癒すことが出来ればどんなに素晴らしいことでしょうか。『人を癒すことが出来れば自分も癒される』多くの職員が体感してくれることを期待します。

『一瞬一生』

平成23年度入職式でお話したフレーズです。

画家の香田泰男氏が作った造語です。一瞬に人生をかけることがある。一生が一瞬に思えることがある。という意味をこめて作ったそうです。私たちの仕事は、その一瞬がその人の一生を左右するかもしれない仕事です。そのためにもその一瞬に自分の一生をかける努力をしましょう。私自身を含め全職員に望みたいと思います。

『有隣会』

有隣会という名称は、論語からきております。

徳不孤（徳孤ならず）必有隣（必ず隣有り）に由来しております。つまり、徳のある人は、孤立することなく必ず他の人を感化してよき隣人を持つという意味です。私たち有隣会グループの職員はそれぞれが徳のある人、仁愛のある人を目指していけばお互いに感化しあってより良い能力集団となって地域社会に貢献することが出来ると考えます。

この有隣会の職員であることに誇りを持ってこれからも頑張りましょう。

『ありがとう、地域と共に60年』

今期のキャッチフレーズです。

60年の歴史を誇りに思うと同時に60年支えて下さった地域に感謝しましょう。

そして、これから新たな歴史を築くのは自分だと主役を買って出てくれる職員が一人でも多く現れることを期待して本日の式典のご挨拶とさせていただきます。